次代の情報社会を主導するシェアリング

東京大学名誉教授
月尾嘉男（つきお よしお）

昭和一七（一九四二）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究するとともに、全国各地で私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組む。

多様なシェアサービスの登場

中華人民共和国教育部（日本の旧文部省に相当）が発表した二〇一八年版「中国言語生活状況報告」によると、前年に社会に誕生した新語は二四二語になるとのことである。話題になったのは「灰色のサイ」「ランサムウェア」「人工知能」「天舟一号」など社会の動向を反映した言葉であるが最大の注目新語は「シェアリング」であった。その背景は社会にシェアリング・サービス（以下、シェアサービス）が急速に浸透してきたことである。

中国で有名な事例は、二〇一六年創業の自転車のシェアサービス「ハローバイク」である。中国全土の数百の都市でサービスを展開し、一五分で約三〇円という安価な値段、利用する場所と返却する場所が多数あるという利便、最大に普及している電子決済アリペイで決済できるなどで人気がある。このサービスの利用者数は約四億人であるが、それ以外にもシェアサイクルは何種か存在し、全体では一三億人近い人々が利用する重要な移動手段になっている。

それ以外に話題になっているのは書籍のシェアサービスで一号は安徽（あんき）省合肥（ごうひ）市に二〇一七年に登場した国営の「新華書店」で、最初に約二〇〇〇円を預託し、一回当たり二冊を一〇日間借りることができる。このようにシェアサービスは中国でさまざまな分野に浸透しており、二〇三〇年には一〇〇兆円規模になると推定され、不況になった二次産業の人員が転職する分野に成長している。

日本にもさまざまなシェアリング経済が登場している。先駆は二〇一三年に創業した「メルカリ」で、現在では売上げ二〇〇〇億円の巨大企業になっているが、それ以外にも自転車のシェアリングの「ハローサイクリング」、最新のファッションを着用できる「エアークローゼット」、キャンピングカーをレンタルできる「カーステイ」、個人の得意の技能を売買する「ココナラ」など多種多様であり、新規の経済分野を創出しつつある。

社会を変革するシェアサービス

シェアサービス発展の背景はいくつかある。発端は社会に余裕がなかった時代に誕生した活動であり、戦後のスイスに登場したカー・シェアリングが最初とされる。当時は高価であった自家用車の共同利用形態がチューリッヒに登場したが、次第に多数の人々が自家用車を所有するようになって低迷しはじめた。ところが一九八〇年代に環境問題が社会の課題になったため、再度、共同利用が復活し、ヨーロッパ各国に浸透してきた。

上記とは反対に豊かな社会が登場させたシェアサービスもある。代表は「エアビーアンドビー」で、簡単に表現すれば個人所有の住居のシェアリングであり、家主が休暇や転勤などで使用しない期間を、宿泊施設として一般に提供するビジネスである。アメリカの三人の若者が二〇〇八年に創業し、世界に浸透して現在では八〇〇万以上の物件を対象とするまでに発展し、最近の年間の予約総数は約五億件となっている。

社会の家族形態が急速に変化し、共働き世帯が増加するとともに高齢者世帯も増加している。それを背景に登場したのが家事代行サービスで日本では上場企業は二社のみであるが、サービスを実施している組織は七〇〇社以上になっている。当初は乱立して問題が発生したこともあったが、「家事代行サービス認証」制度が設立されてサービスの品質を評価し公表するようになり、安心して依頼できる事業として定着してきた。

新規の情報世界を創出するシェアリング

技術が社会を激変させた歴史は何度も発生している。J・グーテンベルクが発明した活字印刷は、聖書を印刷することによって社会での宗教の地位を変更した。J・ワットが実用にした蒸気機関は、工業製品の生産効率を飛躍させて職業構造を激変させた。S・モールスが実現した電気通信は、世界の各地に分散する多数の人々が遅延なく情報を交換できる世界を実現した。これら古典だけではなく、日々、技術は社会構造を変化させている。

現在の社会構造の変化を主導しているのはインターネットという通信手段である。それまでの電気通信手段は電話のような特定の個人と特定の個人が交信するパーソナルメディアか放送のような特定の組織と多数の人々が交信するマスメディアが中心であったが、インターネットは両者の役割を兼備するだけではなく、電話とは桁違いの安価な料金で世界規模の交信ができる新規の情報社会を実現させている。

この通信手段が創出する社会については、さまざまな見解があるが、シェアリングは重要なキーワードになると予想される。C・シャノンが構築した情報理論は少数の人間が所有するほど情報は価値があるという内容であるが、シェアリングでは多数の人間が共有するほど価値があることになる。シャノンが論文「通信の数学的理論」を発表してから、今年は七八年目になる。どのような変化が社会に発生するかを注目していきたい。